

育成を目指す資質・能力(単元)

- (知識・技能) 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測、霧や雲の発生などについて、規則性を理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付けている。
- (思・判・表) 気象観測について、見通しをもって課題を解決する方法を立案して観察・実験を行い、その結果を分析して解釈し、気圧、気温、湿度などの変化との関連について自らの考えをまとめ、表現している。
- (学びに向かう力等) 気象観測に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。

ICT活用のポイント

個人で作成したプレゼン資料を共有し、グループのプレゼン資料を作成することで、直接的な対話が促されたり、作成のための時間を確保したりできる。

【つかむ】

単元の課題を振り返り、学習をまとめる

【追究する】

日常生活との関わりの中で、気象現象を捉え直し、気象現象を説明する

【まとめる】

気象現象を科学的にまとめ、学んだことをこれからの学習や生活に生かせるようにする

事例の概要

ICT端末を用いて、これまでに学習してきたことを振り返ったり、日常生活との関わりの中で気象要素の変化とそれに伴う現象(霧の発生、洗濯物の乾きやすさ等)が起こる仕組みを説明するために個別学習と、協働的な学習を取り入れた授業

【事例におけるICT活用の場面①】

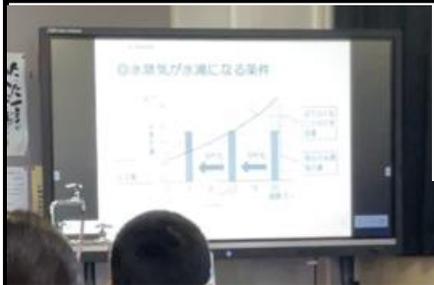
・事前に学習支援ソフト内にヒント資料や画像を保存しておき、必要な資料を自由に選び、自分の考えを持たせたり、表現させたりできる。

【事例におけるICT活用の場面②】

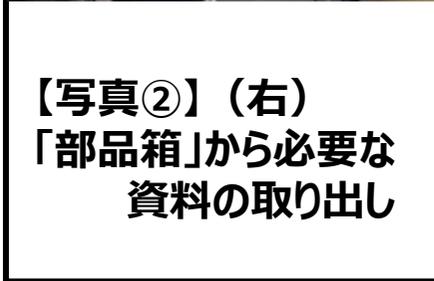
・分担して各自で作成したプレゼン資料を合体させ1つのプレゼン資料を作成する。

【理科・中2・「天気とその変化（気象の観測）」②】

【事例におけるICT活用の場面①】



【写真①】（左）
ICT端末活用による
復習の場面



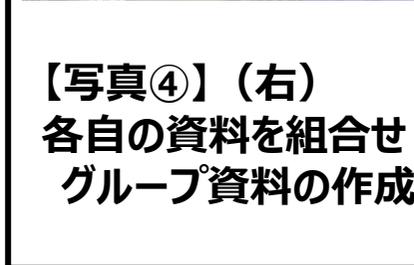
【写真②】（右）
「部品箱」から必要な
資料の取り出し



【事例におけるICT活用の場面②】



【写真③】（左）
各自で作成した
プレゼン資料を吟味



【写真④】（右）
各自の資料を合わせ
グループ資料の作成



- ・これまで学習した気象要素や飽和水蒸気量の仕組みを復習する。短時間で復習ができた。
- ・各自が選択した説明したい気象現象が発生する仕組みを「露点」「飽和水蒸気量」などの用語を用いて説明する。
- ・説明にあたっては、事前に配布されている「部品箱」から自分に必要なものを選択できるようにしておく。
- ・自分に必要な情報を収集・選択し活用する力の育成も図られる。

- ・選択した気象現象グループごとに、各自で作成した資料をICT端末を用いて説明する。
- ・各自の発表資料を基に、「足りない情報」「つながり」「わかりやすさ」などの観点で話し合い活動を行う。
- ・話し合い活動後、作成した資料の修正や新規の資料作成を行う。資料作成しながらも絶えずグループのメンバーで話し合いながら作成する。
- ・作成後、グループのメンバーの資料を組み合わせ、クラス全体の前で端末を活用してプレゼンを行う。

【活用したソフトや機能】: 学習支援ソフト